

地域交通の利便性向上に向けた取組

令和2年2月18日



北海道開発局ホームページへはこちらから。



地域交通の利便性向上に向けた取組

関係市町村・民間

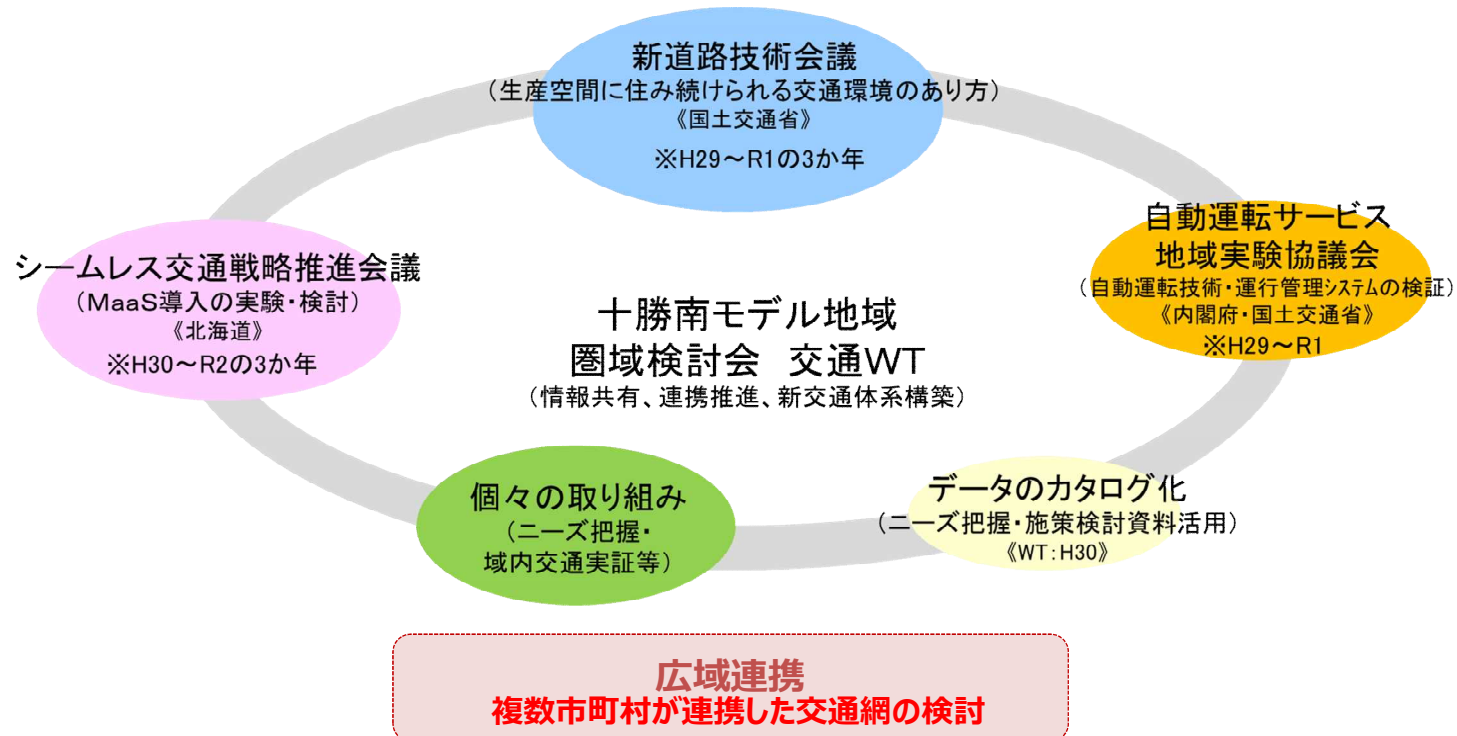
- コミュニティバス、デマンドタクシーの運行、実証実験
- 電子マネー決済システムの実験導入

北海道庁

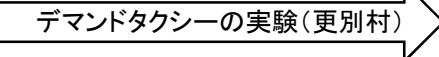
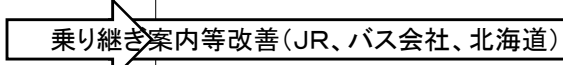
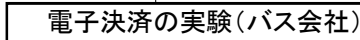
- 北海道交通政策総合指針に基づく、シームレス交通戦略の取組、十勝管内でのMaaS実証実験

国土交通省

- 道の駅「コスモール大樹」を拠点とした自動運転サービス長期実証実験
- 新道路技術会議による実験(有村プロジェクト)
- 日本版MaaS推進・支援事業
- 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の見直し、同法に基づく支援



地域交通の利便性向上に関する取り組み

	～2016	2017	2018	2019	2020～
関係自治体					
	郊外部(川西、大正地区)のりあいバス・タクシー(帯広市)				
		コミュニティバス・予約型乗合タクシー(幕別町)			
		コミュニティバスくるくる号(中札内村)			
		道の駅を拠点とした自動運転サービス実証実験(大樹町、国)			
					
交通事業者					地域公共交通会議の設置(大樹町)
					定住・移動ニーズ調査(大樹町)
					広尾線乗降客調査(広尾町ほか沿線自治体)
北海道					
					
国その他					
		生産空間を支える新たな道路交通施策に関する研究(学識者、民間、開発局)			
			高規格道路快速バスの実走実験(学識者、民間、国、中札内村、大樹町)		
			データの見える化(圏域検討会)		
					地域公共交通活性化再生法等の制度改正(国交省)

北海道運輸局からの情報提供

交通政策審議会交通体系分科会
地域公共交通部会 中間とりまとめ概要
「持続可能な地域旅客運送サービスの提供の確保に向けた
新たな制度的枠組みに関する基本的な考え方
～地域交通のオーバーホール～」

1. はじめに

2. 地域公共交通の現状と課題

- (1) 平成 26 年地域公共交通活性化再生法改正の成果と課題
- (2) 平成 26 年改正以降の地域公共交通をめぐる社会経済情勢の変化

3. 課題・テーマ（解決の方向性）と「地域交通のオーバーホール」の具体策

(1) 地域が自らデザインする地域の交通

- 【具体策①】地方公共団体による「地域公共交通計画（仮称）」作成の努力義務化
- 【具体策②】定量的な目標設定、実施状況の分析・評価の明確化
- 【具体策③】協議会のガバナンスの強化、人材育成
- 【具体策④】公共交通マーケティング手法の活用徹底

(2) 移動者目線の徹底による既存サービスの改善

- 【具体策①】「地域公共交通利便増進事業（仮称）」の創設
- 【具体策②】共同経営等に係る独禁法の特例創設
- 【具体策③】移動その他の地域の課題を解決するための MaaS の円滑な普及促進に向けた措置
- 【具体策④】新技術の積極的活用

(3) 郊外・過疎地等における移動手段の確保

- 【具体策①】「地域旅客運送サービス継続事業（仮称）」の創設
- 【具体策②】タクシーの一層の活用
- 【具体策③】自家用有償旅客運送制度の実施の円滑化
- 【具体策④】ラストマイル対策

(4) 計画の実効性確保及びサービスの持続性重視

- 【具体策①】地方公共団体への通知、意見提出の仕組みの創設
- 【具体策②】貨客運送効率化事業（仮称）の創設
- 【具体策③】「地域公共交通計画（仮称）」と乗合バス等の運行費補助の連動化等

4. 最終とりまとめに向けて

地域公共交通活性化再生法等の見直しの背景

平成26年地域公共交通活性化再生法改正の成果と課題

①地方公共団体が中心となった取組（網形成計画の策定）

- 全国で500件超の網形成計画の策定が進んでいる。
- 策定主体は市町村が中心で、都道府県等による広域的な計画策定は十分に進んでいない。
- 地域ごとに現状の把握や目標設定の方法等を含め粗密があり、PDCAを着実に進める観点から、より一層の具体性・客観性や、分かりやすさ等が必要。

②まちづくり（立地適正化計画等）との連携

- 網形成計画と立地適正化計画を併せて策定する地域が増加している。
- 引き続き、両計画の作成部署が緊密な体制を取った上で、両計画を整合させながら効果的に取組を進めることが重要。

③面的な公共交通ネットワークの再構築（再編実施計画制度の創設）

- 33件の再編実施計画が認定を受けて実施されている。
- メニューが限定的であること、複数事業者が連携した取組について独占禁止法の競争制限に該当する可能性があること、柔軟な事業実施が困難であること等から、取組が十分に広がっていない。

課題・テーマ

地域が自らデザインする地域の交通

移動者目線の徹底による
既存サービスの改善

郊外・過疎地等における
移動手段の確保

計画の実効性確保及び
サービスの持続性重視

平成26年改正以降の地域公共交通をめぐる社会経済情勢の変化

人口減少の本格化

高齢者による運転に係る問題の顕在化

運転者不足の深刻化

公共交通確保・維持のための公的負担の増加

A I ・ I o T等のイノベーション

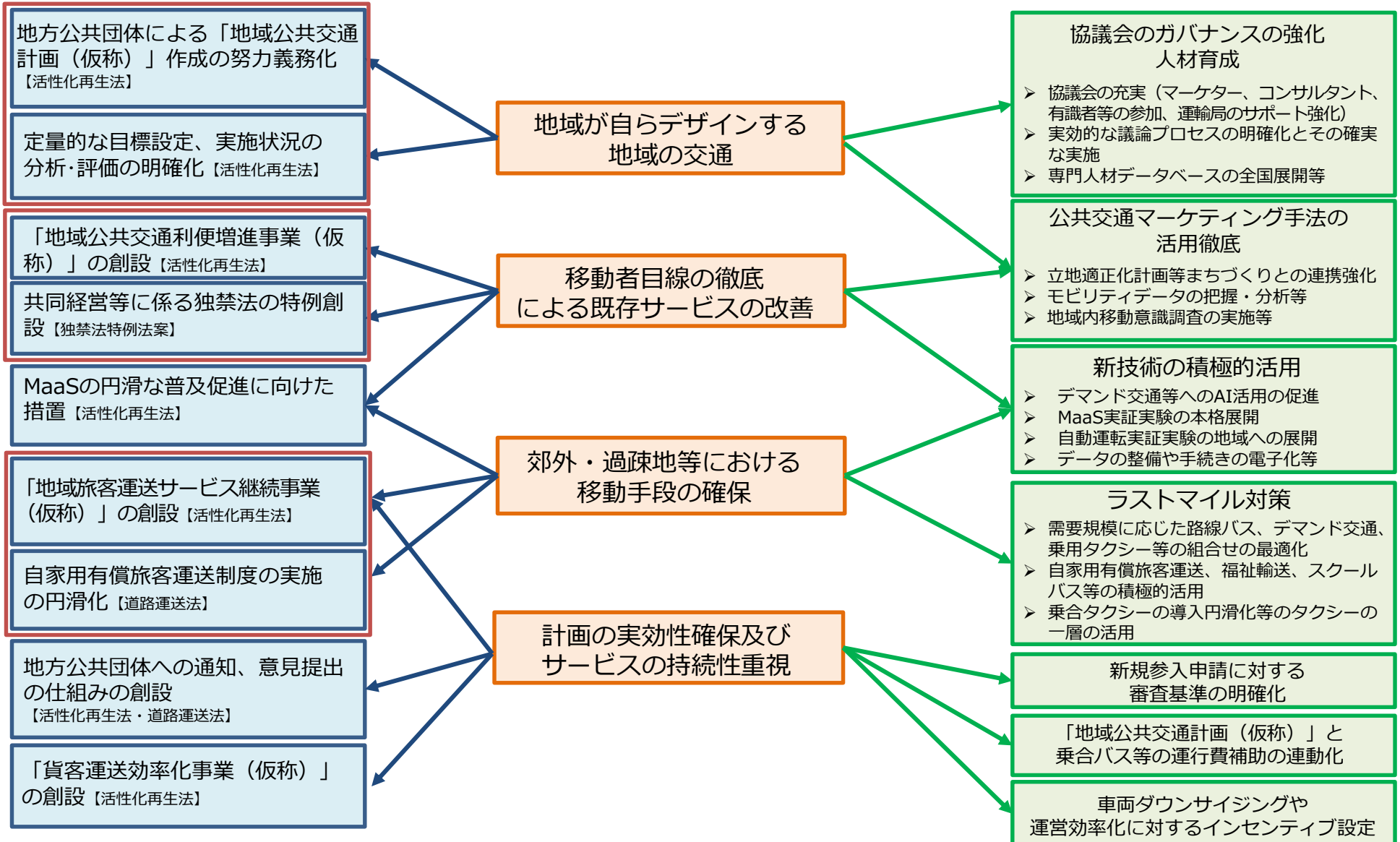
インバウンドの急増

「地域交通のオーバーホール」の具体策

法改正

課題・テーマ

運用改善・支援強化



「北海道十勝 MaaS」実証実験について

十勝の 公共交通での 旅を便利に

MaaS

Mobility as a Service



北海道十勝地域を旅行する方々を対象に、ウェブサイトとMaaSアプリを組み合わせた、目的地提案型のMaaS実証実験を行います。
観光名所やイベント情報、フリーパスチケットのほか、ジュエリーアイスなどの人気の観光地に公共交通機関でお得に行けるツアーも紹介しています。
ぜひ旅のサポート役として、ご活用ください。

実証実験期間

2020年

2/1^土~29^土

豊頃町「ジュエリーアイス」

スマホで「北海道十勝MaaS」WEBサイトにアクセス!

目的地の
提案

WEBサイト

交通チケット
情報を入力

チケットの
購入

MaaSアプリ

経路検索



アプリをダウンロード!



【お問い合わせ】

北海道総合政策部交通政策局交通企画課

TEL. 011-204-5893 受付時間 8:45~17:30 (土日祝日を除く)

検索ワードはコレ! /

北海道十勝MaaS



北海道十勝MaaS



十勝の旅、どこへ行く？

十勝管内の冬のおすすめイベントや観光地、温泉、食などさまざまなおすすめスポットをご紹介します。目的地にあったバスパックなどをご用意しています。
十勝の旅を、お得にスムーズに快適な移動手段としてぜひご利用ください！

北海道十勝MaaS



スマホで「北海道十勝MaaS」WEBサイトにアクセス！



右上のメニューをタップ



観光に興味があれば「観光」をタップ



目的地を決めたら「検索・購入」をタップ

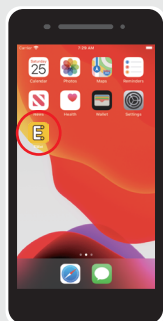


ポップアップ画面からEMotをインストール

チケット購入
経路検索の
準備完了！

次にMaaSアプリ「EMot」を起動！

● チケット購入 モビリティの予約・決済をワンストップで



EMotを起動！



まずはアカウントを作成

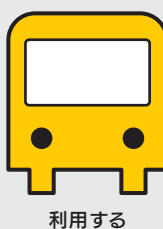


いずれかのアカウントを押して登録



引き続き、クレジットカードを登録

登録が済んだら
チケットストアへ



利用する

簡単、便利、
おトク！

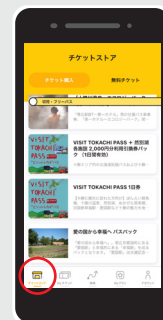
任意の場所で
電子チケット
を見せる



OK!



チケット内容を確認したら
購入手続きに進み、購入



チケットストアで
目的のチケットを選ぶ

● 経路検索 モビリティを組み合わせたルート案内



「早く到着したい」「おトクに行きたい」などの希望に合わせて、モビリティをシームレスにつないで、最適なルートをご提案。例えば、タクシーと電車を組み合わせた効率的なルートや、持っているフリーパスを活用した経済的なルートなど、カンタンに検索することができます。



『EMot』はスマートフォン向けのアプリです。タブレットでの閲覧・利用も可能ですが、スマートフォンブラウザでのご利用を推奨しております。

本チラシ内で紹介の『EMot』は小田急電鉄株式会社が運営・提供するアプリケーションです。

EMotの
情報は
こちら



十勝バス広尾線乗降調査について

十勝バス広尾線乗降調査（冬季）について

1. 目 的

帯広市と広尾町を結ぶ「十勝バス広尾線」は、国、北海道、沿線市町村からの補助金によって維持されている状況である。

今後も人口減少や少子高齢化などの要因で利用者は減少することが予想されていることから、沿線市町村などで行う「広尾線バス輸送確保対策協議会」では将来的に持続可能な公共交通の確保をめざし、便数、ダイヤの見直しやバス利用促進に関する検討を行っている。その検討の基礎データとするため、十勝バス（株）の協力で令和元年度に夏・冬2回の乗降調査を実施した。

1. 実施概要

①調査期間：2020年1月20日（月）～2月2日（日）

②調査対象：十勝バス広尾線の全便（平日往復14便・土日祝日往復10便）

③調査方法：バスに搭載しているカメラセンサー付きシステムを活用

※システム搭載車両が限られているため、日毎の調査対象便は異なる。

2. 調査結果

現在、十勝バス（株）においてデータを収集、集計中。

集計データを受け取り次第、分析を行う予定。

3. 今後の予定

①乗車アンケート調査の実施

乗客ニーズを把握するため、令和2年度に乗客を対象としたアンケート調査を実施する。実施方法は、担当者が実際にバスに乗車し、アンケート用紙に記入してもらう形とする。実施時期や内容については、5月に予定している協議会で決定する。

参考資料

十勝バス広尾線乗降調査（夏季）について

1. 実施概要

- ①調査期間：2019年6月26日（水）～8月6日（火）
- ②調査対象：十勝バス広尾線の全便（平日往復14便・土日祝日往復10便）
- ③調査方法：バスに搭載しているカメラセンサー付きシステムを活用
※システム搭載車両が限られているため、日毎の調査対象便は異なる。
調査期間中の1便当たりの調査回数 5回～21回

2. 運行状況

- ①運行便数及び車両台数 平日14便 土・日・祝日10便
 平日12台 土・日・祝日 9台

②運行時間

帯広始発	6時02分	広尾到着	8時38分	所要時間：2時間36分
帯広最終	20時55分	広尾到着	23時34分	所要時間：2時間39分
出発時間の間隔	1便－2便		30分	
	3便－4便		1時間20分	
	5便－14便		概ね60分	

広尾始発	5時11分	帯広到着	7時52分	所要時間：2時間41分
広尾最終	18時24分	帯広到着	21時05分	所要時間：2時間41分
出発時間の間隔	1便－2便		41分	
	4便－5便		1時間44分	
	5便－6便		30分	
	その他の便		55分～1時間20分	

③停留所数 161か所

帯広市 59か所（市内26、郊外33）、中札内村 18か所、更別村 21か所
幕別町忠類地区 8か所、大樹町 15か所、広尾町 40か所